

船舶事故調査報告書

平成22年4月22日

運輸安全委員会（海事専門部会）議決

委員 横山 鐵 男（部会長）

委員 山本 哲 也

委員 根本 美 奈

事故種類	衝突
発生日時	平成21年5月20日（水） 15時35分ごろ
発生場所	宮崎県日南市油津港 裸 ^{はだかぼえ} 燈台から真方位258° 1,100m付近 （概位 北緯31° 33.8′ 東経131° 24.3′）
事故調査の経過	平成21年6月8日、本事故の調査を担当する主管調査官（門司事務所）ほか1人の地方事故調査官を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等 L×B×D、船質 機関、出力、進水等	A 漁船 第八 ^{ほうりょう} 豊漁丸、3.0トン MZ3-5751（漁船登録番号）、個人所有 8.30m(Lr)×2.12m×0.80m、FRP ディーゼル機関、漁船法馬力数70、昭和57年10月30日 B 釣船 ^{むつみ} 睦海丸、5トン未満 295-30732宮崎、個人所有 6.33m(Lr)×1.76m×0.71m、FRP ディーゼル機関、22.07kW
乗組員等に関する情報	A 船長A 男性 27歳 一級小型船舶操縦士・特殊小型船舶操縦士・特定 免許登録日 平成15年8月8日 免許証交付日 平成20年11月13日 （平成25年11月12日まで有効） B 船長B 男性 81歳 二級小型船舶操縦士・特殊小型船舶操縦士・特定 免許登録日 昭和57年6月28日 免許証交付日 平成19年8月2日 （平成25年1月13日まで有効）
死傷者等	負傷 1人（船長B）
損傷	A なし B 船尾左舷側外板にき裂、船尾左舷側ブルワークに破口等
事故の経過	A船は、船長及び同乗者1人が乗船し、係留地である油津港に帰航途中、遊漁船の出漁状況を見るため、日南市目井津漁港東方の ^{めいづ} 髭ノ ^{ひげのぼえ} 燈台近を航行したあと、平成21年5月20日15時28分ごろ、裸 ^{はだかぼえ} 燈台から211°（真方位、以下同じ。）1.1海里付近で油津港奥を見て、他船を認めなかったため前路に他船はいないと思い、針路を約000°に定め、約7ノットの対地速力で手動操舵により航行した。 船長Aは、操舵室に腰掛けて右舷方を見ながら、船尾甲板に座っていた

	<p>同乗者と会話を始め、船首方の見張りを行っていなかった。</p> <p>A船は同じ針路及び速力で航行中、15時35分ごろA船の船首部とB船の左舷船尾部が衝突した。</p> <p>B船は、船長Bが1人で乗船し、15時30分ごろ裸罫灯台から約258°1,100m付近で釣りをを行うこととし、油津港奥や周囲を見て他船を認めなかったため、船首を北に向け機関を中立にして投錨した。</p> <p>船長Bは、錨泊していることを示す形象物を取り出すため船尾甲板に向かい、船尾方間近に接近したA船を認めた直後、両船が衝突した。</p> <p>船長Bは、衝撃で魚倉の上に転倒し、右肘関節打撲挫創等を負った。</p> <p>衝突後、B船は、A船にえい航されて油津港に入港した。</p>	
気象・海象	<p>気象：天気 曇り、風向 東、風力 1、視界 良好</p> <p>海象：波 ほとんどなし</p>	
分析	<p>乗組員等の関与</p> <p>船体・機関等の関与</p> <p>気象・海象の関与</p> <p>判明した事項の解析</p>	<p>あり</p> <p>なし</p> <p>なし</p> <p>A船は、油津港内を係留地に向けて航行中、船長Aが、油津港に針路を向けた際、同港奥を見て他船を認めなかったため、前路に他船はいないと思込み、右舷方を見ながら同乗者と会話し、船首方の見張りを行っていなかったため、前路で錨泊中のB船に気付かずにB船に向けて航行したものと考えられる。</p> <p>船長Bは、錨泊を開始する際、周囲を見て他船を認めなかったため、適切な見張りを行っていなかったものと考えられる。</p>
原因	<p>本事故は、油津港において、A船が係留地に向けて航行中、B船が錨泊中、A船が、船首方の見張りを行っていなかったため、前路のB船に気付かずにB船に向けて航行し、両船が衝突したことにより発生したものと考えられる。</p>	